平成２０年度事業評価監視委員会（第１回）資料

補足資料１

再 評 価 対 象 事 業
パワーポイント説明資料

再評価
重点

国営みちのく杜の湖畔公園事業



平成20年11月18日

国土交通省 東北地方整備局

事業のプロフィール

公園概要

本公園は、東北地方の広域的レクリエーション需要に対応することを目的に設置された国営公園である。

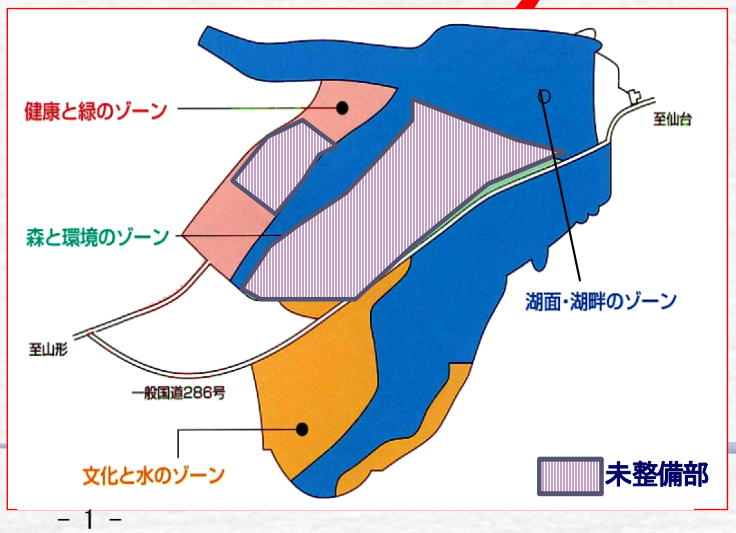
昭和56年度から事業着手し、平成元年度に部分開園した。

現在、計画面積647．4haのうちの約5割、305．1haを開園。

開園当初から平成20年9月までの累計入園者は約950万人。（平成19年度の年間入園者数は約71万人）。東北有数の観光レクリエーションの拠点となっている。

国営みちのく杜の湖畔公園事業	
事業着手	昭和56年度
事業完了	平成25年度
全体事業費	470億円 (進捗率94%)
残事業費	28.3億円





事業内容【文化と水のゾーン】



整　備　概　要

●東北の山を代表する蔵王を軸線に「彩の広場」等を整備、また、東北の文化・風俗を体験する「ふるさと村」や遊具で遊ぶ「わらすこひろば」を整備。

ふるさと村　H9.10オープン

●東北各県の古い民家を移築復元し、東北地方に伝わる「暮らしの知恵」を学びとれるよう、様々な体験イベントを開催



遊び体験ボランティア



ジャンピングドーナツ

わらすこひろば　H3. 4オープン

●ちびっこドームやジャンピングドーナッツ、せせらぎ水路など楽しい遊具が完成

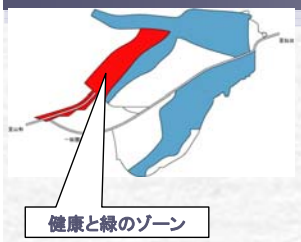


彩りのひろば

彩りのひろば　H元. 8オープン

●季節ごと10万株の花々が咲き乱れ、多彩な年齢層の方々から良い反響

事業内容【健康と緑のゾーン】



整　備　概　要

●自然豊かさを実感する「エコキャンプみちのく」や既存自然資源である「丘」「原っぱ」「小川」「雑木林」「湖面」等で構成する風の草原を整備

エコキャンプみちのく　H15. 7オープン

●、手軽に自然を味うことを可能とした。また、ゴミの徹底分別への参加で、リサイクルの果たす役割を学ぶ機会を提供。（H19.7～8利用者35，000人）



キャンプサイト
149サイト



リサイクル施設
（コスト縮減2，200万円/年）

風の草原　H20. 5オープン

●大きな原っぱを使ったノルディックウォーキング等の健康活動フィールドを提供。
また、ドッグラン（0.4ha）も整備され、飼犬と共に豊かな自然を体験できる場を提供。



ドッグラン



草原で遊ぶ
子ども達

市民が活躍するみちのく公園

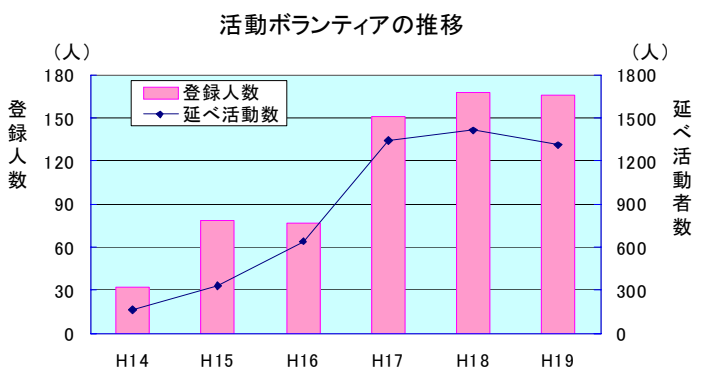
●市民と共に考え、共につくり、市民が活き活き活躍する公園づくりを推進



自然解説ボランティア



ふるさと村の民話の会



○みちのく公園で活躍するボランティア

- 自然解説ボランティア
- ふるさと村の民話の会
- みちのく公園パートナーネットワーク
- 食のボランティア
- アウトドア・リーダーボランティア
- 昔遊びの会
- 釜房ろばたの会

多彩な体験プログラムを実施

●東北の自然や文化にふれあえる公園として、東北の伝統文化体験や環境学習など多彩な体験プログラムを実施
●「総合的な学習の時間」の場として多くの利用

○自然とのふれあい体験

公園内をフィールドに「自然を感じ楽しむ会」を毎月開催。小・中学校等の団体を対象とした環境プログラムを実施。

（H19実績）
自然観察会　44回/年　参加2,278名

○ふるさと村体験

「民話を聞く会」や「食に関する体験イベント」、田植えの総合学習等を実施

（H19実績）
昔遊び他　70回/年　参加11,584名
ろばたの会　109回/年　参加23,216名





自然を感じ楽しむ会



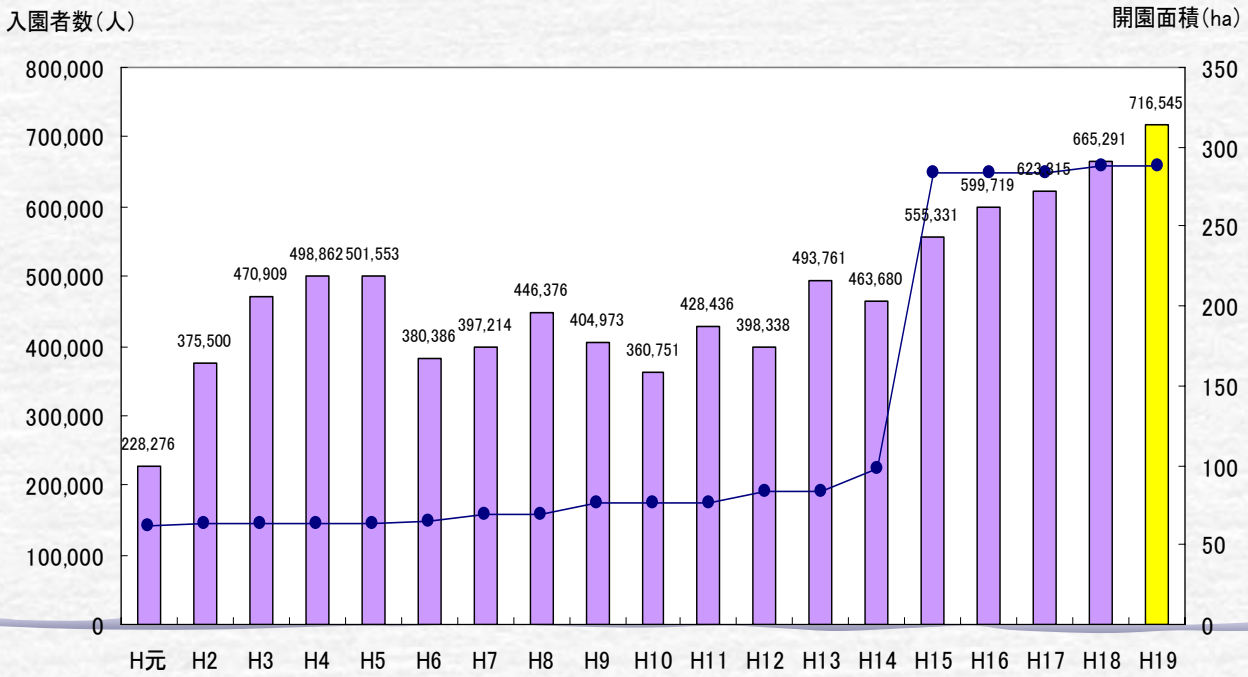
総合学習



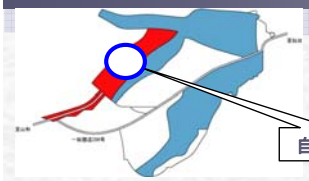
ふるさと村体験

みちのく公園の入園者数の変化

●平成元年の開園から平成20年9月末までの累計入園者数は約950万人
●平成19年度は開園以来最高の71万人を達成
●東北地方の主な観光地の人出では、みちのく公園は10位
●宮城県内の主な観光地の人出でも、みちのく公園は松島海岸に次いで2位



これからの整備【健康と緑のゾーンの自然共生園】



整　備　概　要

●みちのくの文化継承の役割を担うため、「美しい里地風景」を再現し、里地文化の知恵を体験・参画する「みちのく自然共生園」を整備



知恵体験舎

●里地文化の「良さ」を体験学習（食・耕作）する拠点施設として学舎を建設



湿生草花園

●希少種のサクラソウなど里地の野花を再生し、小川の風景を創出



茅場の風景

●茅の生えた緩やかな丘陵は、牧草地イメージで里地の風景を創出する。



ビジターセンター

●文化継承のため里地文化（食、耕作、風景）の「良さ」を情報発信

これからの整備【森と環境のゾーン】



整　備　概　要

●薪炭林として利用されていた整備地を間伐や既存山道の整備により里山を修復
●里山の「良さ」を情報発信・体験する「山の楽校」を整備
●みちのく公園を一体化する「地域交流拠点」を整備

自然生態園

●間伐等により希少植物が再生可能な「生物の多様性」を実現し、四季折々の花が咲く「里山」を復活



山の楽校

●里山の「良さ」と維持するための「文化」を体験する拠点、自然に親しむ方法を体験で学び、里山の育成を学習



地域交流エリア

●国道脇に休憩所を設け、里山の情報を発信。
　また、分断されているみちのく公園を一つのものとする。



費用対効果

費用の算定

費用＝事業費＋維持管理費

■事業費

施設整備費、用地費の総計

■維持管理費

50年間の維持管理費

社会的割引率4%を考慮

便益の算定

便益＝直接利用価値＋間接利用価値

■直接利用価値（旅行費用法）

移動費用（料金・移動時間費用）を支払ってでも公園を利用したいとする価値

■間接利用価値（効用関数法）

公園が存在することによる
環境・景観、防災面の価値

社会的割引率4%を考慮

費用対効果（B／C）＝（便益）／（費用）

「費用便益算定」の流れ

①誘致圏の設定

②ゾーン（市区郡）の選定

③競合公園の選定

④費用（Cost）の算定

⑤直接利用価値の算定

⑥間接利用価値の算定

⑦費用便益の算定

■誘致圏を100kmと設定

	5km未満	0～10km	0～20km	0～50km	0～100km
総合公園	55.3%	73.6%	85.1%	93.0%	95.4%
運動公園	57.7%	75.0%	87.9%	95.8%	98.5%
広域公園	33.1%	51.4%	72.0%	86.6%	93.0%
国営公園	7.9%	19.5%	42.4%	72.6%	91.0%

出典：国土交通省　平成18年度都市公園利用実態調査

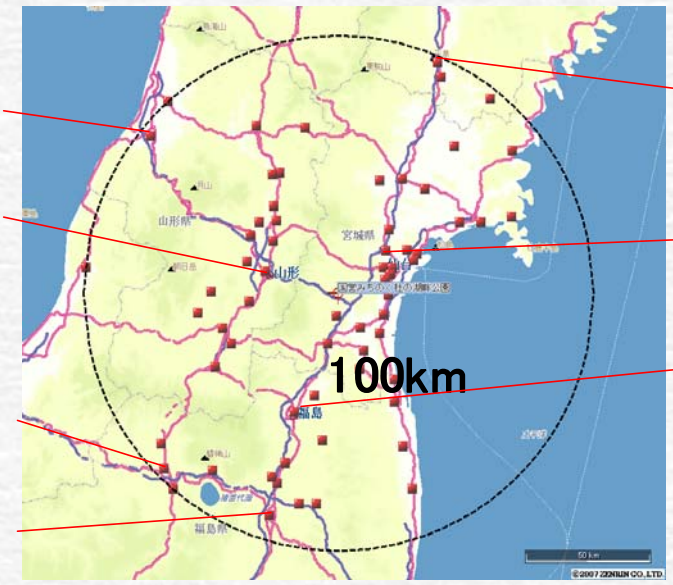
■誘致対象とする市町：仙台市、福島市、山形市、会津若松市、鶴岡市、一関市等（66市区郡）

■誘致圏内の競合公園を選定：89公園

■公園整備に要する事業費（施設整備費・用地費）と公園供用後50年間（H元～H50）に要する維持管理費用の合計。

みちのく公園の誘致圏

誘致圏



費用対効果分析結果

総便益（B）	357,680	[百万円]
総費用（C）	101,030	[百万円]
費用便益比(B/C)	**3.54**	[　－　]
純現在価値(NPV)	256,650	[百万円]
経済的内部収益率(EIRR)	29.0	[　%　]

国営みちのく杜の湖畔公園事業の評価

原案：継続

国営みちのく杜の湖畔公園事業は、

1. 東北らしい風土と文化を踏まえ、利用者が積極的に参加・参画できるプログラム・各種イベントの運営を行い、 年間70万人を超える来場者を迎えている。

2. 今後の整備は、失われつつある「ふるさと」を実践するものであり、幅広い利用が見込まれ、かつ、整備により各ゾーンを一体化することから、公園の利便性を大きく高め、利用者の増加が予想される。

3. 宮城県や仙台市など地元自治体等からは早期完成の要望がされており、一層の事業の推進が期待されている。

以上のことから、事業の効果が認められる。